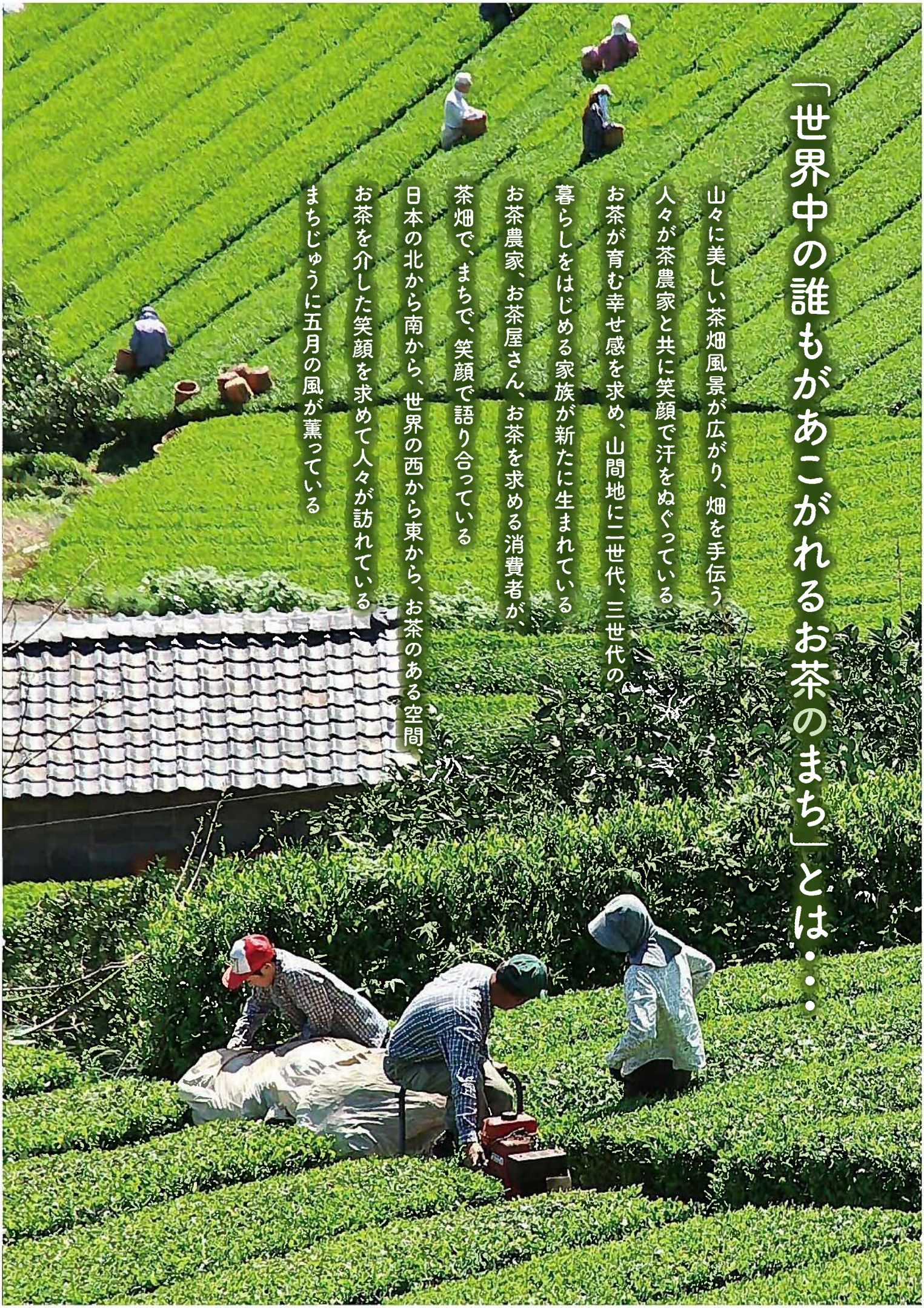
第2次 静岡市茶どころ日本一計画

（改訂版）

令和5年3月
静岡市

ECO
阪
新
仙

CHIYODA TAXI
224
SHIZUOKA CITY
130



「世界中の誰もがあこがれるお茶のまち」とは・・・

山々に美しい茶畑風景が広がり、畑を手伝う
人々が茶農家と共に笑顔で汗をぬぐっている
お茶が育む幸せ感を求め、山間地に二世代、三世代の
暮らしをはじめる家族が新たに生まれている
お茶農家、お茶屋さん、お茶を求める消費者が、
茶畑で、まちで、笑顔で語り合っている
日本の北から南から、世界の西から東から、お茶のある空間、
お茶を介した笑顔を求めて人々が訪れている
まちじゅうに五月の風が薫っている

はじめに

静岡市は、山間地を中心に茶畑が広がる全国有数の茶産地であり、全国の茶産地からお茶が集まり消費地へ送り出すお茶の集散地でもあります。また、静岡市民の緑茶の購入数量は、全国1位であり、お茶の消費も盛んなまちであります。

この静岡市のお茶に関する伝統、文化、産業等を守り、静岡市を日本一の茶どころとして育て、次代に継承していくため、本市では平成20年に「静岡市めざせ茶どころ日本一条例」を制定しました。そして、平成21年には計画期間を令和元年度までとする「静岡市茶どころ日本一計画」を策定し、これまで、静岡市をお茶のまちとしてブランディングすることを戦略の柱としたお茶のまちづくりや茶業の振興を進めてまいりました。

令和2年3月には、「第2次静岡市茶どころ日本一計画（以下、「第2次計画」という。）（令和2年度～令和12年度）」を策定し、「茶業の成長産業化～収益力が高く、強く攻めの茶業への転換～」を目標に、静岡市の茶業の土台となる『経営基盤の強化・推進』、世界に向けて「静岡市のお茶」と「お茶のまち静岡市」を発信し、海外の需要を拡大していくための『輸出力の強化』、本市がお茶のまちとしてあり続けるための『お茶の消費拡大と新たな需要の創出』の3つを重点施策に掲げ、様々な施策に取り組んできました。

しかしながら、この間、若者のお茶離れ、茶価の低迷、生産者の高齢化、担い手の減少、耕作放棄茶園の増加、海外情勢や円安の影響による資材や肥料の高騰など、茶業を取り巻く環境は年々厳しさを増してきました。また、環境に配慮した持続可能な農業への移行や、新型コロナウイルス感染症の影響による新しい生活様式への転換など、茶業を取り巻く社会環境も大きく変化しています。

一方で、多様化する消費者ニーズや海外における健康志向の高まりを背景として、日本全体の緑茶輸出は伸びを見せるなど、明るい兆しもあります。

このような様々な変化に的確かつ迅速に対応するとともに、本市の茶業が活力ある日本一の茶どころとして持続的に維持・発展し、生産者が安定的に茶の生産を行うことができるよう、今回、第2次計画の見直しを行いました。

見直しにあたっては、「静岡市のお茶」のブランド力を強化するとともに、消費者ニーズに合ったお茶づくりの支援、体験などコトづくりの充実による新たな需要の創出、消費の拡大に向け様々な業種や団体との連携など、これまで以上に推進していくことを掲げています。

静岡市民にとって身近で当たり前に感じられるお茶ですが、改めてお茶が育む価値を見直し、茶業の振興はもとより、お茶を通じた豊かな市民生活を次代に確実に継承できるよう、市民、茶業者、行政が大同団結し「世界中の誰もがあこがれるお茶のまち」を目指していきます。

最後に、今回の計画の見直しにあたりまして、ご協力いただいた市民の皆様、静岡市茶どころ日本一委員会及び静岡市お茶のまちづくり推進協議会の委員の皆様並びに関係機関や関係団体の皆様に心から厚くお礼申し上げます。

令和5年3月

静岡市長　田辺信宏